

肝心かなめの 肝臓 のはなし

17

香川大学医学部消化器・神経内科教授
正木 勉

原発性胆汁性胆管炎の重大な合併症 かゆみとその対策

健康な人でも、皮膚のかゆみは相当な不快感がありますよね。報告によると、原発性胆汁性胆管炎患者のそう痒症発現率は約70%と大変高く、その患者のうち74%が睡眠障害をきたすほどのかゆみを訴えています(図)。

原発性胆汁性胆管炎のかゆみには、抗ヒスタミン薬、抗アレルギー薬、外用ステロイドで対応します。しかし、肝炎、肝硬変、原発性胆汁性胆管炎といった慢性肝炎患者の中には、これらの薬剤の効果がでない難治性のかゆみを有する人もいます。

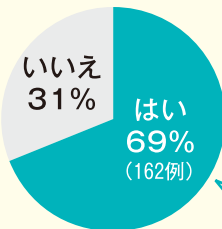
難治性のそう痒症を発症した患者はつらいかゆみに1日中悩まされ、治療にも難航することで常に精神的、肉体的苦痛を感じ、QOL(生活の質)が激しく低下した状態となります。

原因は脳内麻薬 新しい薬剤も開発

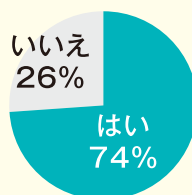
難治性のかゆみを誘発するのは、体内に存在する内因性オピオイド(脳内麻薬)の一つ、β-エンドルフィンなどです。

原発性胆汁性胆管炎患者への かゆみに関するアンケート(海外データ) かゆみと睡眠障害

「かゆみはありますか？」



「かゆみによって睡眠が妨げられましたか？」



実際に、激しいかゆみを伴う原発性胆汁性胆管炎患者には、この内因性オピオイドが血液中に多いことが知られています。

最近では、β-エンドルフィンのかゆみを刺激する受容体を相対的に弱めるナルフラフィン

という薬剤が開発されました。これは原発性胆汁性胆管炎の難治のそう痒に有効な改善薬として、処方されています。

次号は女性に多いもう一つの肝疾患、自己免疫性肝炎についてお話しします。